

子どもが輝くドイツの幼稚園・保育園
園庭ビオトープ視察ツアーレポート
写真でつづるツアーの様子

私たちの協会が企画した、子どもの健全な発育の促進に向けて自然体験の場づくりを積極的に進めるドイツの保育施設などを視察するツアーが、2006年9月11日から7日間にわたり実施されました。この視察ツアーには、日本国内の幼稚園・保育園の経営者をはじめ、ビオトープ管理士など園庭ビオトープに関心のある方々が多数参加されました。

ドイツの子どもたちも、日本と同様に、幼いときからテレビやインターネットなど多くの情報に浸かり実体験が減少していることが危惧されています。そうしたなか、今回訪問した幼稚園・保育園では、園児が五感を通して様々な刺激を受容し、試行錯誤を通じて新たな気づきや発見ができるよう、園庭などから人工物を極力排除し、自然との触れあいを促す取り組みを積極的に実践していました。ポツダムにあるアンネ・フランク保育園では、園の敷地全体が林であり、その林のなかにある園舎では、園児がいる部屋からすぐに林のなかに出られるように配慮されていました。森の中に潜む様々な危険はその都度先生が子どもたちに教えます。またカールスルーエ市の森の幼稚園では、天候にあった服装を準備したうえで、雨の日も冬の寒い日も市営林署から借りた森のなかで過ごします。子どもたちは、倒木や枝などを使って、創造力を働かせることにより、自然のなかでの様々な遊びを展開します。こうした日々の自然体験を通して、園児の観察力や創意工夫する能力は実際に高まり、積極性も身に付くなどの報告もありました。

■このツアーの内容をご覧になりたい方は[こちら](#)から

写真1 カールスルーエ教育大学モデル生態園



ビルケンバイル博士から園庭ビオトープの考え方について説明をうける。

写真2 自然保育園シティ



木が茂る園庭。

園児が木々の間を出入りしている。
「あ、知らない人達がいる」と驚いた顔。

写真3 然保育園シティ



自然体験を園の保育指針の中心に据えた理由などについてお話をきく。

写真4 校環境センター



敷地内にビオトープがない幼稚園や学校が定期的に利用する環境教育施設にて、
様々な体験を促す庭のあり方について説明をうける。

写真5 ヴァルドルフ学校附属幼稚園



幼稚園の教諭と保護者などがアイデアをもち寄ってつくった園庭。
人工物を極力排除している。

写真6 アンネ・フランク保育園



2,500m²ある園庭を視察する参加者。奥に林に囲まれた園舎が見える。

写真7 アンネ・フランク保育園



園庭で遊ぶ子どもたち。

写真8 アンネ・フランク保育園



園舎の周りにはすぐに林がひろがっている。

写真9 プリスターヴェッグ小学校



ヨーロッパ環境大賞を受賞した小学校を訪問。児童や保護者からの厚い歓迎。

写真10 プリスターヴェッグ小学校



学校ビオトープに訪れるチョウをイメージしたダンスを披露する子どもたち。

写真 11 森の学校ヴァルドハウス・グロサー・ラヴェンスベルグ



地域の幼稚園が定期的に訪れる環境教育施設で、
参加者も昼食タイム。
子どもたちがいつもするように、
木の枝にソーセージをさして焚き火で焼いて頬張る。

写真 12 世界遺産ツェツィーリエンホーフ宮殿横のビアカウンターにて



全視察を終えて、その収穫にドイツの美味しいビールで乾杯。

欧米先進事例の視察・研修をご希望の場合には、企画・アレンジ・通訳のお手伝いをいたします。
自然と共存する美しい国やまちをつくるシンクタンクとしての知見を駆使し、最新の情報をご提供いたします。お気軽にご相談ください。

- ★ 11月5日発売の月刊誌「ソトコト(木楽舎発行)」2006年12月号に、「子どもが輝くドイツの幼稚園・保育園園庭ビオトープ視察ツアー」のレポートが見開き2頁で掲載されました。そちらもあわせてご覧ください。